

6. 指導過程

段階時間	指導内容	教師のはたらきかけ
(復習) 導入 7分	1. あいさつと日常生活についての簡単な会話 2. 前時の復習 ○ 前時に学習した基本文 <It is +形容詞+to不定詞の文> 3. 本時の学習についての確認	○ 毎時のあいさつの後、学校生活や家庭生活等についての質問をし、数名に答えさせる。 ○ 「学習のめあて表」に予習的課題として提示しておいたので、ピクチャーカードを用いて、スピーディに言わせる。 ○ 意欲的な言語活動に発展出来るように、本時の課題(指導)の内容についてわかりやすく説明する。
展	4. 本文の内容把握 (1) 録音テープ聴取 (2) 本文の内容の要点となる英文の発表	○ 本文の内容を、1回目はピクチャーカードを見せながら、2回目は教科書の英文を見せながら聞かせる。 ○ 何人かの生徒に、内容的に大切と思われる英文を発表させる。
	5. 理解度の確認 (1) 英問英答と補説問題 (2) コースの選択	○ 生徒一人一人のつまずきの原因がある程度わかるような、難易度をふまえた英問を準備し、答えさせる。 ○ 一問ずつ、内容と答え方の両面へフィードバックさせ、もう一度同じ質問に答えさせる。 ○ 「自己評価票」の評価問題の欄に、◎、○、×の記号で記録させ、コースの選択をさせる。
	6. コース別学習課題と言語(表現)活動	○ 分枝型学習形態をとる。 <Aコース(基礎)、Bコース(標準)、Cコース(発展)> ○ 本文の内容、目標文を考えて、自分の選んだコースの問題が出来るように、机間指導により、個に応じた働きかけをする。
開 38分	Aコース ○ T or Fテストを通した本文の内容の確認	○ 本文の内容を把握させる上で大切な文を、そのままの形で、又は一部内容を変えて与え、それぞれの文の正誤を判断させる。 ○ 与えられた文の内容が理解できない生徒に対しては、次のような働きかけをする。 ア. 教科書を開かせ、同じような内容の文を見つけ出させ、相違点に気づかせる。 イ. 単語の意味や、Phraseごとの意味を確かめさせる。 [抽出生徒に対する働きかけ] (E男) アを中心とした方法で指導にあたる。 (F子) イを中心とした方法で指導にあたる。
	Bコース ○ Q and Aを用いての本文の内容に関する簡単な応答 ○ 絵を用いた自由表現	○ 本文の内容の要点となる重要な文を中心に、内容理解の状況を把握するために、英問を与える。その際に、本時の目標であるIt...to～を含む質問を取り入れ、その文までは到達できるようにさせる。 ○ 生徒が興味をもつような絵をもとに、It...to～を含む目標文を中心に応用させ、つづり字にはこだわらず、思い切って書かせ、発表させる。 [抽出生徒に対する働きかけ] (D子) ・ It...to不定詞の構文を、絵を用いて発表できたか。 ・ Aコースにもどる場合は、基礎の大切さに気づかせ、しっかり英文を読みとるようにさせる。 (C男) ・ 絵を用いた自由表現の様子を確認する。 ・ Cコースに意欲的に進もうとしている場合は、賞賛してやり、Cコースの(1)Q and Aまでは到達できるように指導する。
	Cコース ○ Q and Aを用いての内容の確認 ○ 身近な事柄としての自由表現	○ 本文の内容について、Bコースよりやや高度な英問を与える。 ○ 形式にこだわらず、自由に表現させる。 ○ It...to～を使って、自由に表現させる。 [抽出生徒に対する働きかけ] (A男, B子) ・ 自由に表現させる場合、場面設定等が困難と思われる時は、ヒントを与えてやる。 ・ Cコースを選んだ生徒同士で相談させることも考慮する。
整理 5分	7. 本時のまとめと次時の予告 (1) 自己評価 (2) 次時の予告	○ 本時の学習状況を反省させ、「自己評価票」に記入させる。 ○ 「学習のめあて表」により、次時の学習内容を示す。